

令和5年度病虫害発生予察情報 予報第11号（11月）

令和5年11月15日
発表：福島県病虫害防除所

1 野菜・花き

作物名	病虫害名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	全域	—	少ない	発生ほ場割合は平年より低かった（－）。	多発すると防除が困難になるので、発生初期から薬剤防除を徹底する。
	土壌病害（萎黄病、炭疽病）	全域	—	多い	発生ほ場割合は、平年より高かった（＋）。	発病株及び発病が疑われる株は、見つけしだい抜き取り、ほ場外に持ち出すなど適切に処分する。
	アブラムシ類	全域	—	やや多い	発生ほ場割合は平年より高かった（±）。	低密度時から薬剤防除を実施する。
	ハダニ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	低密度時から薬剤防除を徹底する。 薬剤感受性が低下しやすいので、薬剤の効果を確認し、気門封鎖剤も含めて系統の異なる薬剤をローテーション散布する。 天敵製剤（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）を放飼している場合は、ハダニ類の発生状況に応じて、天敵に影響の小さい薬剤を選択する。
	コナジラミ類	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は平年より低かった（－）。	低密度時から薬剤防除を実施する。
野菜・花き共通	ハスモンヨトウ	全域	—	平年並	発生ほ場割合は、平年並であった（±）。	防虫ネットを設置し、施設内部への侵入を防ぐ。株元をよく観察し、特に施設内への侵入が認められてしまっている場合には、丁寧に薬剤散布を行う。

注）予報の根拠の中で（＋）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。

○注意が必要な病虫害

冬春トマト（被覆栽培）	<p>■トマトキバガ</p> <p>本種は体長約5～7ミリの微少な蛾で、南米大陸が原産です。トマトなどのナス科作物に大きな被害を与えており、幼虫が茎葉や果実をせん孔しながら加害します。冬春トマト施設内で発生のおそれがあるので、ほ場をよく観察し、見つけしだい捕殺してください。被害様相の詳細については、令和5年度病虫害防除情報（令和5年11月15日付け発表）を参照すること。</p> <p>また、発生が疑われる場合には、各農林事務所（農業振興普及部・農業普及所）、農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病虫害防除所）又は生産環境部作物保護科へ連絡ください。</p>
-------------	--

より詳しい発生状況や防除対策は、福島県病虫害防除所ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/> をご覧ください。

お問い合わせは TEL:024-958-1709、FAX:024-958-1727 または e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp へお願いします。